

# 日本社会分析学会ニューズレター

2017年2号 [2017年6月23日発行]

発行：日本社会分析学会事務局

〒750-8511 下関市向洋町1-1-1

梅光学院大学 桑畑研究室内

編集責任者：桑畑 洋一郎(事務局長)

Tel: 083-227-1000 (梅光学院大学※代表)

E-mail: [sasa@jsasa.org](mailto:sasa@jsasa.org)

ホームページ: <http://jsasa.org/>

郵便振替口座: 01740-0-49579

(名義) 日本社会分析学会

※第133回例会プログラムをお届けします。皆さま奮ってご参加ください。

※7月29日(土)例会前に**理事会**を開催します。次の方々にご出席ください(敬称略)：

[会長・理事] 三隅、稲月、加来、高野、辻、徳野、山本(努)、[監査] 山下(亜)、益田  
理事会のご出欠、お弁当の要・不要を7月10日までに、メールで事務局にお知らせください。

## ●第133回研究例会のご案内

### 歓迎の言葉

谷 富夫 (甲南大学)

第133回研究例会を甲南大学で開催させていただくことになりました。本学は六甲山南麓の住宅街に建つ、学生数9千人の中規模校です。学舎高樓からの眺望は頗る良好で、快晴の日には大阪湾の遙かむこうに生駒山地と金剛山地と和泉山脈が長々と連なって姿を顕します。

甲南学園(中学・高校・大学で構成される)は1919年に創設され、再来年100周年を迎えますが、大学は旧制甲南高等学校を発展させる形で1951年に新設されました。「社会学科」の設置はその6年後のことで、井森陸平、増田光吉、井上忠司、平松闊、野々山久也、森田三郎等々の社会学者並びに文化人類学者によって継承され、今日に至っています。大学院で彼らの薫陶を受けた研究者が約20名、関西の大学を中心に現在活躍中です。

甲南学園の創立者、平生鈇三郎(ひらお・はちさぶろう)が、大阪市立大学を開設した関一大阪市長とよく似た経歴を辿っていることは、両大学に籍を置いた私などには中々興味深いことです。ともに東京高商(現一橋大)の出身で、平生が3年先輩にあたります。その後二人は同じころに関西へ移り、明治から昭和にかけて当地の政治行政、産業振興と、学校教育の発展に大きく貢献しました。キャンパス1号館1階にある「甲南学園史資料室」には平生氏と学園の歴史資料が展示されています。小さな部屋ですが、研究発表の合間にでも立ち寄ってみて下さい。

本学会の長い歴史の中で、関西での例会開催は初めてのことです。三隅一人新会長はじめ皆様のご期待に応えるべく、精一杯努めさせていただきます。関西・東海地方にもけっこう会員がおられます。できるだけ多くの当地会員で遠来の皆様をお迎えし、議論をたたかわせつつ、旧交を温める良い機会になればと念じます。ふるってご参加下さいますよう、よろしく願い申し上げます。

## ★ 第 133 回 日本社会分析学会例会プログラム ★

日程：2017 年 7 月 29 日（土）～7 月 30 日（日）

会場：甲南大学・岡本キャンパス 10 号館 1 階

報告会場：1011 教室、控室：1012 教室

（〒658-0072 兵庫県神戸市東灘区岡本 8-9-1）

※持ち時間は **30 分**（報告 20 分：質疑 10 分）が標準です。レジュメや資料は 35 部程度ご準備ください。報告にてプロジェクターが使えます。

※当日大学生協の食堂は営業していません。学内のコンビニエンスストアは営業しております。

### 7 月 29 日（土）

理事会 11:30～12:30（会場：10 号館 7 階「社会調査準備室」、お弁当は用意いたします）

開 会 12:40

### 自由報告部会 I（12:50～14:20）

1. 「正規社員と長時間労働の現状」 佐々木 武夫（西南学院大学）
2. 「摂食障害患者の家族が有する生活支援ニーズについて」 山下 亜紀子（九州大学）
3. 「学齢期発達障害児の放課後生活に関する一考察（仮）——母親の語りを通じた活動決定過程」  
西村 いづみ（県立広島大学）

=Coffee Break(10 分)=

### ミニシンポジウム「社会学が開く震災復興・防災の展望」(14:30～16:20)

主旨：震災の復興・防災においては社会学が貢献できることは大きい、はずである。それは一般的に言えば、復興・防災に関わる地域社会の選択肢を社会学的視点から見直すこと、そしてまた、社会的にみて必要な選択肢を増やすことである。もちろんその内容はケース・バイ・ケースであるにしても、それを考察する枠組みや方法論に関してはもう少し体系的に整理されたものが求められるだろう。こうした整理は、震災をふまえた社会学の理論発展のためにも重要なことである。そのためには、社会学の従来的な学問体系や、必ずしも体系だって共有されていない社会的知を、実践的な応用を含めて、復興・防災の観点から組み直す作業を積み上げる必要がある。

このミニシンポジウムでは、お二人の講師をお招きして、こうした整理を進めるためのヒントをいただき、本学会の震災と社会に関する研究展開を促したい。講師のお一人は、阪神淡路大震災に際して綿密な調査をふまえた社会シミュレーション・ツールを開発し、アクション・リサーチ的な社会心理学研究を展開されている矢守克也氏、もうお一人は、東日本大震災以前からの気仙沼における継続的社会調査をふまえて、被災地の社会構造の変化およびコミュニティと生業の復興・存続の条件を探求されてきた帯谷博明氏、である。本学会からは、熊本震災に際して車中泊や見做し仮設住宅居住者の実態調査を進めてこられた稲月正氏に、コメンテーターとして論点提示をしていただく。

講演者：矢守 克也（京都大学）「防災・減災に資するコミュニケーションツール開発に関するアクションリサーチ」

帯谷 博明（甲南大学）「多主体協働の復旧・復興活動と新たな『コミュニティ』形成——宮城県気仙沼市唐桑町の事例から」

コメンテーター：稲月 正（北九州市立大学）

司会（コーディネーター）：三隅 一人（九州大学）

=Coffee Break(10分)=

総会（16:30～17:30）

懇親会（18:00～）会場：5号館1階「カフェ・パンセ」（会費：有職者 5,000 円、非有職者 3,000 円）

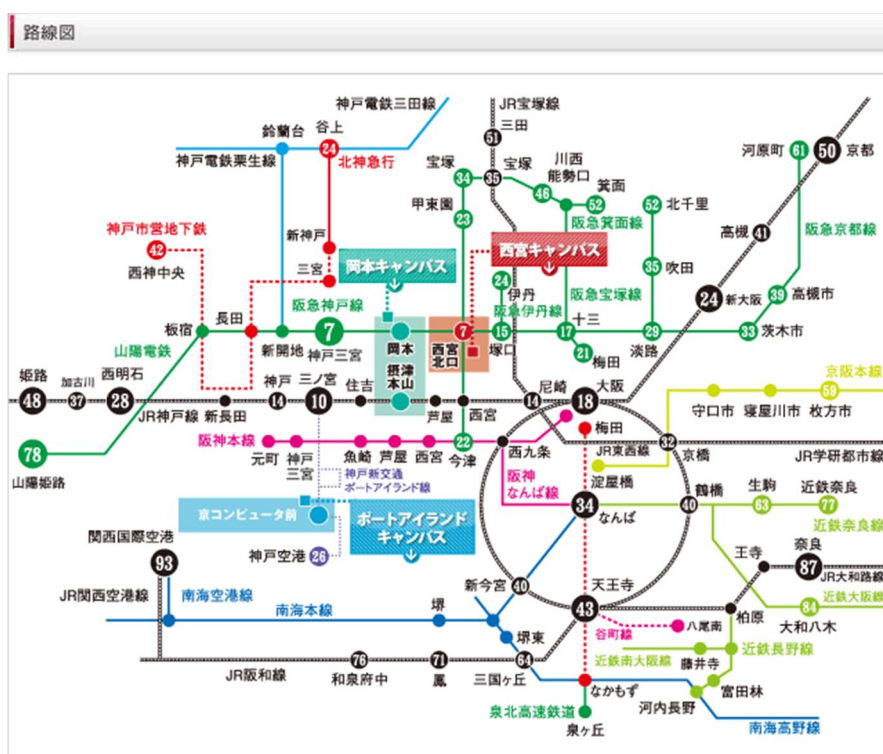
## 7月30(日)

### 自由報告部会Ⅱ（10:00～12:00）

1. 「在韓被爆者医療支援における在日コリアン牧師と日本人医師の協働」  
——アイデンティティの作用に着目して—— 高橋 優子（九州大学大学院）
2. 「在日コリアン寺院における信者獲得のメカニズム」 吉田 全宏（大阪市立大学大学院）
3. 「日本人男性と結婚したフィリピン人女性のエスニシティの保持と社会参加」  
——外国人「非集住地域」の事例から—— 津村 江美（北九州市立大学大学院）
4. 「社会福祉協議会による住民参加の推進についての考察」 張 夢心（九州大学大学院）

閉会 12:00

### ●会場までの交通案内(開催校HPより)



## 岡本キャンパス

■ 文学部 
 ■ 法学部 
 ■ 経済学部 
 ■ 経営学部 
 ■ 理工学部 
 ■ 知能情報学部

住所 〒658-8501  
兵庫県神戸市東灘区岡本8-9-1

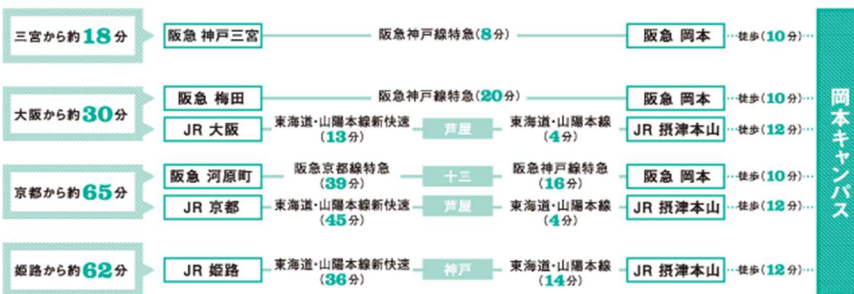
TEL 078-431-4341

JR神戸線摂津本山駅から徒歩12分  
阪急神戸線岡本駅から徒歩10分



## 通学シミュレーション

※乗り換え時間は含みません



※JR摂津本山駅の南出口（海側）にタクシー乗り場があります。岡本キャンパスまでおよそワンメーターですので、どうぞご利用下さい。

## ●宿泊

宿泊は、神戸・大阪（梅田）近辺に多数ございますので、上記地図と「通学シミュレーション」をご参考になさってください。

## ●会場案内図(開催校HPより)

